

令和6年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	134

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 たちばな小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 城戸 敬幸

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	○明確な研究目標と計画的な研修の取組により、対話を重視した授業作りが確立できている。昨年度の研究大会の成果の引き継ぎとして、低・中・高学年別に集会活動を行うことができた。 ○日常の教科指導や委員会活動、係活動等において、タブレット等を有効に活用できている。◆不適切な使い方等で、タブレットの故障が多い。情報モラルを含めて、発達段階に応じた指導をしていく。 ○日々の学習の積み重ねで、全国学テでは、どの教科も全国・県平均を上回っている。◆体力面については、柔軟性を高める運動についての取組を進めていきたい。 ○各学年で、可能な限り地域のゲストティーチャーを招き、授業の中で話をしてもらっている。故郷たちばなを大切にしたいという思いが少しずつ育ってきている。
			学校関係者	100	72	28	0	0	3.7	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	54	46	0	0	3.5	
			学校関係者	100	72	28	0	0	3.7	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	100	54	46	0	0	3.5	
			学校関係者	100	43	57	0	0	3.4	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	74	26	0	0	3.7	○人権・同和教育参観日を通して、日常の中での不合理的なことについて考えたり、保護者への啓発をしたりできた。◆情報端末を使ったトラブルが増えているので、適切に指導していく。 ○5つのめを共通指導することで、児童の規範意識が醸成されつつある。◆学校外でのトラブルが未然防止できるよう、家庭とも連携して指導していく。
			学校関係者	100	43	57	0	0	3.4	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	70	30	0	0	3.7	
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	○キャリアパスポートの活用や出前授業、外部講師との交流などによる成果が出てきている。◆教師の小さかったころの夢を話すなど、低学年での取組に工夫を加えていく。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	74	26	0	0	3.7	○安全点検の徹底と早急な修理改善に努め、児童への指導も定着している。◆引き続き、児童の自己管理能力を育てる指導を行うとともに、下校時の歩き方について繰り返し注意していく。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	78	22	0	0	3.8	○テールを活用した朝の連絡は定着したが、未加入の家庭が1件ある。頭部のけがや発熱した場合は、連携して保護者へ早急に連絡し、迎えに来てもらうことができた。 ○常時教室の対角線上の窓を開けて換気の徹底ができた。児童自身が判断してマスクの着脱も行っている。また、保健だよりを通して、保護者への啓発も行うことができた。
			学校関係者	100	72	28	0	0	3.7	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	78	22	0	0	3.8	
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	58	42	0	0	3.6	○コーディネーターを中心に、配慮を要する児童の実態を共有し、教職員全員で関わる体制ができています。
			学校関係者	100	72	28	0	0	3.7	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	70	30	0	0	3.7	○様々な事案を学年部や生徒指導部、管理職が共有し、最善策を講じて対応することができた。今後も報・連・相を大切にしながら、組織として対応できるようにしていく。
			学校関係者	100	67	33	0	0	3.7	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	58	42	0	0	3.6	○昨年度までの研究の成果を引き継ぎながら、4本の研究授業を通して研修が深められた。◆多様な教育課題やニーズに対応した外部講師による研修にも取り組んでいきたい。
			学校関係者	100	67	33	0	0	3.7	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	58	42	0	0	3.6	○見守り活動や様々な行事等を通して、地域や保護者とのコミュニケーションが図られた。◆コミュニティ・スクール開始に向けて、無理のない形で運営できるよう準備を進めていく。 ○可能な限りHPや学年だよりを更新し、学校の様子を伝えることができた。◆HPのアクセス数をもっと増えるよう、紙面の工夫や保護者への周知等を進めていく。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	74	26	0	0	3.7	
			学校関係者	100	72	28	0	0	3.7	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲等の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	66	34	0	0	3.7	○つながりをテーマにした集会を低・中・高学年別に担当学年が発表し、ことばによる伝え合いが浸透してきている。季節に応じた展掲を通して、児童の言語に関する意識が高まっている。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	38	62	0	0	3.4	○小1児童の不安感の解消や学校生活への適応促進のために、学校生活支援員や学級補助員を配置し、対応している。学校訪問を通して、小中の教職員の連携強化が図られた。 ○中学校との情報交換については生徒指導面を含めて円滑に行われている。◆幼保小中連携教育推進の研究が進められるよう、情報機器を活用しながら学校間で交流する機会を増やしていく。
			学校関係者	100	28	72	0	0	3.3	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	44	56	0	0	3.4	
			学校関係者	100	33	67	0	0	3.3	